

田ノ口小でグリーンレモン料理自慢大会開催

昨年12月11日(日)、田ノ口小学校で「わたしたちのグリーンレモン料理自慢大会」が開催されました。

同イベントは、5・6年生の「町の良い所を見つけよう」という総合的な学習の時間の一環で行われ、一般の出店のほか、町内飲食店の方にアドバイスをいただきながら児童が作成したスイーツなどの販売がありました。

来場した深木祐二さんと垂里紗さんご夫婦は、「レモンの味がすっきりしておいしかった。子どもたちが元気にやっている姿を見て自分たちも元気をもらえた」と話しました。

同小6年生の森岡美結さんは、「最初は不安だったけど、良い思い出になった。この大会で終わりでなく、今後もPR活動が続けて、最終的には



「黒潮町と言えど、最終的にはばグリーンレモン」と言っても「もらえるくらい広めたい」と話しました。

プロボートレーサーの片岡雅裕さんが町に寄附

昨年12月21日(水)、小黒ノ川地区出身で、現在香川県丸亀市で活動しているプロボートレーサー・片岡雅裕さんが松本敏郎町長を訪問しました。

片岡さんは昨年8月23日(火)の28日(日)の6日間で行われた「SG第68回ボートレースメモリアル」で優勝。それに伴い、町へ100万円を寄附していただきました。

懇談の後、目録が片岡さんより松本町長へと渡され、寄附に伴う感謝状が松本町長より贈呈されました。

片岡さんは、「地元である黒潮町に何かしたいとずっと考えていた。今回の寄附金は、未来ある子どもたちのために、教育の分野で活用してほしい。そして、子どもたちにはぜひとも夢を持ってがんばってもらいたい」と話しました。



松本町長(左)と片岡さん(右)

活用してほしい。そして、子どもたちにはぜひとも夢を持ってがんばってもらいたい」と話しました。

まほろば Vol.20 くるしお

「まほろば」とは、素晴らしい場所・住みやすい場所という意味。まほろばな黒潮町で頑張る人や団体にスポットを当て、紹介するコーナーです(隔月掲載予定)。



いちご農家 金子 光さん

幡多地域で生産されているブランドイチゴ、「おおきみ」。現在は黒潮町・四万十市・宿毛市の3市町村、9つの事業所で作られています。東京や大阪、シンガポールなど海外でも販売されているそうです。父母と3人、15aのハウスで日々イチゴ作りに励んでいる金子さんに話を聞きました。

「おおきみ」の栽培を始めたきっかけは?

私は元々農業ではない別の仕事を2つ掛け持ちしていたのですが、子どもが生まれてからは「もっと子どもたちとの時間が欲しい」と思い始めました。その頃、父が「さちのか」という品種のイチゴを作っていたことや、地区の集まりで農業をしている方の話などを聞き、農業をやってみようかなと思ふことが始まりです。

黒潮町のイチゴ栽培の主流は「さちのか」だったので、農業の研修を受けた翌年から小さいハウスを借りて「さちのか」を育てていました。その頃に「おおきみ」の話聞き、育ててみたいと思いました。当初はハウスを半分に分けて「さちのか」と「おおきみ」の2種類を育てるつもり

「おおきみ」の特徴を教えてください

ほかのイチゴと比べると、粒が大きく甘いです。通常、花が咲いて実が成り、30日で収穫ができるようになりますが、「おおきみ」は40日程かかります。その分ゆっくりに熟れて、色も綺麗で甘くて大きなものになるんですよ。あとは、花の



収穫の様子

現在の課題や今後の目標は?

生産者が少ないことが、一番の課題だと思っています。数年前から呼びかけをしていて徐々に増えてきてはいますが、ほかのイチゴ農家さんにも今まで育てていたものから品種を変えるのは難しく、なかなか増えないというのが現状です。新規就農者の方に声を掛けたりしながら頑張っています。

今の「おおきみ」を維持するだけでなく、これまでやってきたことを活かして発展させ、もっと広めていくことが目標です。



化粧箱に入れられたイチゴ